

リモコンドアロック機能の配線方法

セキュリティシステムでリモコンドアロック機能を実現する際には、集中ドアロックのスイッチ（たいていは運転席のドアにパワーウィンドウのスイッチと一緒にあります）からドアロックリレー（こちらはダッシュボードの裏あたりにあることが多いです）へ行っている線に配線をする必要があります。

ところが、クルマの集中ドアロックのスイッチには大きく分けて以下の3種類があり、それぞれの方式でリモコンドアロック機能の配線方法も異なります。したがって、まずは集中ドアロックのスイッチの端子にテスターを当ててどの方式かを判別して下さい。

なお、独立した集中ドアロックのスイッチがないクルマの場合はダッシュボードの裏あたりにあるドアロックリレーの配線をチェックして下さい。

3ワイヤーポジティブスイッチ方式（ほとんどのGM車）

1本は常時電源（ポジティブ）です。別の1本はスイッチのロックが押されたときだけポジティブで、残りの1本はスイッチのアンロックが押されたときだけポジティブです。

3ワイヤーネガティブスイッチ方式（フォード車の一部とアメリカ車以外の車） ほとんどの日本車がこれです

1本は常時アース（ネガティブ）です。別の1本はスイッチのロックが押されたときだけネガティブで、残りの1本はスイッチのアンロックが押されたときだけネガティブです。（日本車の場合は線が4本あることもあります。その場合は常時アースが2本あります。下の4ワイヤー方式と間違えないでください。）

4または5ワイヤー方式（ほとんどのフォード車、クライスラー車、GMの一部など）

1本は常時電源（ポジティブ）です。1本もしくは2本は常時アース（ネガティブ）です。残りはスイッチがどちらかに押されたときにポジティブで、スイッチが別の方に押されればネガティブにかかります。（中にはロックが押されたときにポジティブでアンロックが押されたときにはネガティブになるクルマ、もしくはこの逆のクルマもあります。）

ポジティブ、ネガティブの判別の仕方

最初にテスターの黒をボディのアースがとれるところに接続し、赤をスイッチの配線に接触させてテストします。通電があればポジティブです。通電がなければテスターの赤を常時電源に接続し、黒をスイッチの配線に接触させてテストします。通電があればネガティブです。（必ず先にポジティブから試してください。）

運転席ドアにアクチュエーター（ドアロックを動かすモーターのようなもの）が入っていない場合は別売のアクチュエーターを取り付けないと運転席ドアのロックはリモコン操作できません。

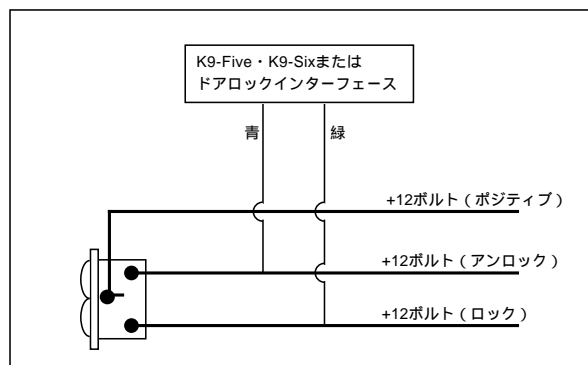
なお、アクチュエーターを新たに取り付ける場合の配線方法は左の3つの方法とは異なります。

運転席ドアにアクチュエーターが入っていないクルマ 全ドアにアクチュエーターが入っているクルマ

- ・ニッサン全車種
 - ・トヨタ系ワゴン
 - ・いすゞ系ワゴン
 - ・三菱の一部
 - ・ホンダの一部
 - ・マツダの一部
- ・トヨタのワゴン以外
 - ・三菱の上級車種
 - ・ホンダの上級車種
 - ・マツダの上級車種
 - ・いすゞの一部

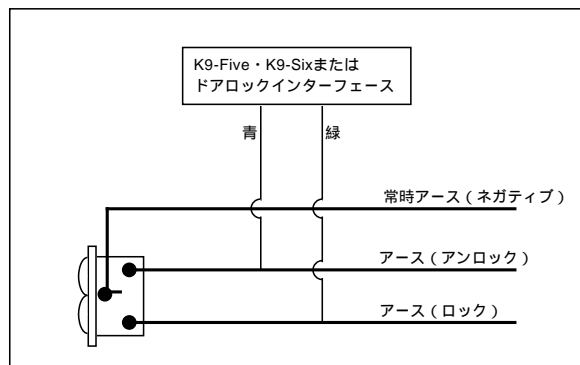
3ワイヤーポジティブの場合

- ・青コード スwitchのアンロック時にポジティブになるコードへ
- ・緑コード スwitchのロック時にポジティブになるコードへ



3ワイヤーネガティブの場合

- ・青コード スwitchのアンロック時にネガティブになるコードへ
- ・緑コード スwitchのロック時にネガティブになるコードへ



4または5ワイヤー方式の場合

ドアロックのスイッチから出ていて、スイッチのロック側を押した時にポジティブになる線と、スイッチのアンロック側を押した時にポジティブになる線をカットして配線を割り込ませます。

